

[J.Inst.Enol. Vitic.Yamanashi Univ.32,23~39,1997]

## 資料

## 新品種・白ワイン用ぶどう「ヤマ・ブラン」の品種登録

山川 祥秀・守屋 正憲・穴水 秀教

山梨大学工学部附属発酵化学研究施設ぶどう育種試験地においては、業務の一環として、ワイン用ぶどうの育種を行っている。

1978年に行った山ブドウ(*Vitis Coignetiae*)を母親とする各種ぶどうの交雑実生株から、山ブドウの血の入った白ワイン用ぶどうを作出することを目的に、「戻し交雑」を行ったところ、栽培性、ワイン酒質が優秀な一株を選抜することができ、種苗法第7条第1項の規定に基づき、品種登録を行うこととした。

この品種は、山ブドウを母親とし、ピノ・ノワール(*Vitis vinifera* cv. Pinot noir)を父親とした交雑実生株の一株(育種番号78510502)を「戻し交雑」の父親(花粉親)として、ピノ・ノワールに交配した一連の交雑実生株から選抜したものである。

品種登録の品種名を「ヤマ・ブラン (Yama blanc)」とした。

ここに、必要書類である「品種登録願」「説明書」「現地調査表」「特性表」「試作データ」の資料を掲載する。

## 品種登録願

平成8年12月 日

農林水産大臣

藤本 孝雄 殿

出願者

住所 〒400 山梨県甲府市武田4丁目4-37

電話番号 (0552) 52-1111

氏名又は名称 山梨大学

(代表者氏名) 学長 伊東 壯

代理人

住所

電話番号

氏名又は名称

(代表者氏名)

種苗法第7条第1項の規定においては基づき、次のとおり出願します。

- 1、農林水産植物の種類 果樹 (ぶどう)
- 2、出願品種の名称 ヤマ・ブラン (Yama blanc)
- 3、出願品種の育成をした者 3人  
氏名(ふりがな) 山川 祥秀 (やまかわ よしひで)  
守屋 正憲 (もりや まさのり)  
穴水 秀教 (あなみず ひでのり)

4、特定条件下の出願(該当する場合のみ記入)

(1)出願品種が職務育成品種である場合

山梨大学工学部附属発酵化学研究施設ぶどう育種試験地は、各種ワイン用ぶどうの品種特性、栽培特性、ワイン特性の調査およびワイン用ぶどうの育種を業務としている。品種登録を申請する当品種は、業務の一環として育成されたものである。

- (2) 出願品種の育成をした者の承継人が出願した場合  
(承継事由)
- (3) 既に外国に対して出願した品種について出願した場合  
(国名、出願年月日、品種名称及び登録年月日)
- (4) 同盟国出願又は特定国出願をした者が優先権の適用を受けようとする場合
- 5、提出物件の目録等
- (1) 出願品種の植物体の写真 3種類 各3枚
- (2) 出願品種が種子又は種菌とする場合  
提出する種子又は種菌の別及びその量 (○をつけて下さい)  
種子 2,000粒 種菌 試験管 5本
- (3) 種子又は種菌を種苗としない品種の場合  
特性を確認できる原木・親株等の維持、保存場所及びその方法
- 6、添付書類の目録
- (1) 願書及び説明書 正副各1通
- (2) 現地調査票 1通
- (以下該当しないものを消去)
- (3) 使用者等が出願した職務育成品種の場合  
契約・勤務規則等の写し 1通
- (4) 代理人出願の場合  
委任状 1通
- (5) 出願品種の育成をした者の承継人が出願した場合  
承継人であることを証する書面 1通
- (6) 出願品種が2人以上の者によって共同で育成された場合であって、  
出願者の全部又は一部が当該出願品種の育成をした者(育成した者の  
一般承継人を除く。)である場合、育成をした者の地位の承継(一  
般承継を除く。)につき当該承継の時における他の出願資格者(出願  
品種の出願者となることのできるものをいう。)の同意を得たことを  
証する書面 1通
- (7) 出願者が日本国内に住所及び居所を有しない外国人である場合  
国籍を証する書面(原文及び翻訳文) 各1通
- (8) 同盟国又は特定国に1年以内に出願されている場合で優先権の適用  
を受けようとする場合  
最先の同盟国出願又は特定国出願があったことを証する書面(原文  
及び翻訳文) 各1通
- (以下該当するものを記載)
- (9) 試作データ
- (10)
- (11)

## 説 明 書

農林水産植物の種類	果樹(ぶどう)
出願品種の名称	ヤマ・ブラン(Yama blanc)
出願者の氏名又は名称	山梨大学

### 1、出願品種の植物体の特性

#### (1) 概要

この品種は、山ブドウ(*Vitis Coignetiae*)とピノ・ノワール(*Vitis vinifera* cv. Pinot noir)の交



その中から、山ブドウの血が入った白ワイン用ぶどうを作るため、裂果がなく、病害に強く、果房が大きすぎず、小果粒であるが、果皮色がピンク系の株を選び、「戻し交雑」の花粉親(育種番号78510502)とした。

1983年6月上旬、「ピノ・ノワール」にこの花粉親から採集した花粉を交配、採種(163粒)、貯蔵、播種(1984年春)、育苗、定植(30株、18.4%)、果皮色が黄緑系の株(2株、6.7%)を選抜、この2株について、栽培特性・ワイン特性などを精査し、栽培特性にすぐれ、ワイン品質にもすぐれていた1株(育種番号8305(78510502))を、種苗登録する価値のある株と判断して、申請することとした。

(5) (4)における特性の検定の概況

a.栽培地 山梨県甲府市塚原町1262  
山梨大学工学部附属発酵化学研究施設ぶどう育種試験地

b.栽培年月及び期間 1989年から7年間

c.栽培の方法(栽培規模その他)

1988年から、育種目標に合った実生株2株を選抜して、原木のみを平棚仕立てして、栽培特性及びワイン特性などを5年間にわたり調査し、データの収集を行って来た。

1993年、その内の1株(育種番号8305(78510502))を優秀品種と判断し、1994年に高接ぎ株の作成、1995年に自根苗を作り、1996年から垣根栽培(約25m、25株植え付け)を開始している。

d.詳しい内容は添付書類とする(測定数値等)

4、出願品種の主たる用途 白ワイン原料用

5、出願品種の栽培の方法

(1)適応地域

果汁酸度がやや高いが、東北地方までは適応できるものと思われる。また、病害に比較的強いことから、暖地で降雨量の多い地方でも適応できるものと思われる。

(2)作型 一般的ぶどう栽培法

(3)その他栽培上の留意事項 特になし

6、その他(参考となるべき事項) 特になし

## 現地調査表（果樹）

平成8年12月 日

- \*1 [ ] のうち該当する方を○で囲んで下さい。  
 2 空欄には必要事項を記入して下さい。

1 出願品種の種類及び名称

農林水産植物の種類 果樹 (ぶどう)  
 出願品種の名称 ヤマ・ブラン (Yama blanc)

2 連絡先及び担当者氏名

連絡先住所 山梨県甲府市北新一丁目13-1  
 山梨大学工学部附属発酵化学研究施設 (0552-20-8604)  
 担当者氏名 有野 剛  
 所属 山梨大学工学部附属発酵化学研究施設 会計係長

3 出願品種及び対照品種の試作状況

(1) 出願品種の原木はありますか。

「ある」場合には、その所在を記入して下さい。〔ある、 ない〕

所在地 山梨県甲府市塚原町1262  
 山梨大学工学部附属発酵化学研究施設ぶどう育種試験地

(2) 出願品種を高接ぎした成木(結実しているもの)あるいは苗木から養成した成木(結実しているもの)はありますか。「ある」場合には、高接ぎ・苗木の別、樹齢別本数及び所在地を記入して下さい。

〔ある、 ない〕

	樹齢	本数	所在地
〔高接ぎ、苗木〕	2年生	2本	発酵化学研究施設ぶどう育種試験地
〔高接ぎ、苗木〕	2年生	23本	発酵化学研究施設ぶどう育種試験地

(3) もっとも類似する対照品種を2品種以上あげ、対照品種として考えた理由を記入して下さい。

品種名 ピノ・ノワール 理由 交雑親 (花粉親及び雌性親)  
 (No.1)

品種名 山ブドウ 理由 交雑親 (雌性親)  
 (No.2)

(4) (3)であげた対照品種が出願品種と同一園あるいは近隣にありますか。

「ある」場合には、本数、樹齢を記入して下さい。  
 対照品種名 ピノ・ノワール 〔ある (同一園、近隣)、 ない〕  
 (No.1)

対照品種名 山ブドウ 〔ある (同一園、近隣)、 ない〕  
 (No.2)

No.1 本数 3本、 樹齢 10年生  
 No.2 本数 2本(雄性株 1本、雌性株 1本)、 樹齢 4年生

## 4 現地調査時期

可能な時期 1997年9月 1日～ 1997年9月30日  
最も適した時期 1997年9月16日～ 1997年9月19日  
(区別性が最も明確に判別できる時期)

## 5 現地調査場所

住所 (〒400) 山梨県甲府市塚原町1262  
山梨大学工学部附属発酵化学研究施設ぶどう育種試験地  
交通機関 JR中央本線 甲府駅下車

## 6 試作データの整備状況

(1) 出願品種の試作データがありますか。 あり、 ない  
「ある」場合には、試作データを当方あて1部送付して下さい。

(2) 出願品種の試作については、県果樹試験場、普及所等に相談して行っていますか。相談している場合には、その機関名及び担当者氏名を記入して下さい。

[相談している、 相談していない]  
機関名 担当者

## 7 その他(特に連絡事項がある場合に記入して下さい。)

## 特 性 表

調査に当たっては種苗特性分類調査報告(審査基準)を参照のこと。

農林水産植物の種類名 (ぶどう) 出願品種の名称 (ヤマ・ブラン(Yama blanc))

出願者の氏名又は名称 (山梨大学) 育成者(山川 祥秀、守屋 正憲、穴水 秀教)

出願者の住所(山梨県甲府市武田四丁目 4-37)

育成地の場所(山梨県甲府市塚原町 1262 山梨大学工学部附属発酵化学研究施設ぶどう育種試験場)

特性調査場所(育成地と同じ)

特性調査者の氏名(山川 祥秀)

特性調査年(1994年から1996年) 類似品種の名称(ピノ・ノワールおよび山ブドウ)

形 質	出願品種の特性値(標準品種との比較)									備 考 (測定値等)	類 似 品 種 の 特 性 値
	01	02	03	04	05	06	07	08	09		
樹の広がり			小		⊕				大		ピノ・ノワールより大であるが、山ブドウより小である。
樹 勢			弱		⊕				強		山ブドウに似て、若木は強い。
熟梢の太さ			細		⊕				太		ピノ・ノワール(6.2mm)より太い。
熟梢の色	黄	黄褐	褐	暗褐	紫褐					(7.9mm)	
熟梢の綿毛の密度	⊖ 無	極粗	粗		中			蜜		極蜜	
節間横断面の形	円	楕円	扁平								
熟梢表面の形状	滑らか	角ばる	細溝あり	肋骨あり							ピノ・ノワールは滑らか。
幼梢先端の色	黄緑	薄赤	赤	紫赤	紫						山ブドウより淡く、ピノ・ノワールに似る。
幼梢先端の綿毛の密度	無	極粗	粗		⊕			蜜		極蜜	山ブドウは極蜜、ピノ・ノワールに似る。
巻きひげの着生	②	3以上									
若葉の下面の葉脈間綿毛の密度	無	極粗	粗		中			⊕ 蜜		極蜜	山ブドウは極蜜で褐色系、当品種は蜜で白色系。
若葉の下面の葉脈間絨毛の密度	⊖ 無	極粗	粗		中			蜜		極蜜	山ブドウは粗に属するが、ピノ・ノワールに似る。
若葉の下面の主脈上の綿毛の密度	無	極粗	⊕ 粗		中			蜜		極蜜	

形 質	出願品種の特性値(標準品種との比較)									備 考 (測定値等)	類似品種の特性値
	01	02	03	04	05	06	07	08	09		
若葉の下面の毛度の密	無 極粗		粗		中		密		極密		
花穂の着生数	極少		少		中		多		極多	(2.2)	3花穂を着ける場合もある。
花穂の形	円筒	円錐	複穂円筒	複穂円錐							
花穂の長さ	極短		短		中		長		極長	( cm)	
蕾の大きさ			小		中		大				
花 性	雄性	雌性 両性	両性	両性 雌性	雌性						
花粉の多少			少		中		多				
成葉葉身の形	くさび形	心臟形	五角形	円形	腎臓形						
成葉の裂片数	全辺	3片	5片	7片	7片以上						山ブドウは心臟形で裂刻なし、 ピノ・ワールに似る。
葉身横断面の形	平	槌状	内巻	外巻	波打ち						
成葉上面の膨れ	無 極小		小		中		大		極大		
葉縁鋸齒の形	両側弓形	両側直線	両側円形	片側凸凹							
鋸齒基部幅に対する長さの比			短		中		長			(0.4)	ピノ・ワールに似る。
葉身先端部の形	鋭	中	鈍	円						(98度)	ピノ・ワールに似る。
葉柄裂刻の一般的な形	広く開く	開く	閉じる	重なる							ピノ・ワールよりやや狭い。
成葉上裂刻の一般的な形	無	開く	閉じる	重なる							
成葉上裂刻の深さ	無		浅		中		深い			(16%)	
成葉の大きさ			小		中		大			(葉長17.4cm) (葉幅17.0cm)	148cm <sup>2</sup> ピノ・ワール 130cm <sup>2</sup> 山ブドウ 257cm <sup>2</sup>

形質	出願品種の特性値(標準品種との比較)									備考 (測定値等)	類似品種の特性値	
	01	02	03	04	05	06	07	08	09			
成葉上面の色	黄緑	緑	暗緑	赤褐								山ブドウは暗緑、 ピノ・ノワールに似る。
成葉下面の色	黄緑	暗黄緑	淡褐	緑褐	灰赤	濃赤褐						ピノ・ノワールは黄緑、 山ブドウは濃赤褐。
葉柄の色	緑	淡紅	紅									山ブドウは紅、 ピノ・ノワールに似る。
成葉の下面の綿毛度の密	無し	極粗	粗	中			密		極密			ピノ・ノワールは無し～極粗、 山ブドウは密。
成葉の下面の絨毛度の密	無し	極粗	粗	中			密		極密			山ブドウは粗に属すが、 ピノ・ノワールに似る。
成葉の下面の綿毛度の密	無し	極粗	粗	中			密		極密			ピノ・ノワールは無し～極粗、 山ブドウは極密。
成葉の下面の絨毛度の密	無し	極粗	粗	中			密		極密			ピノ・ノワール、山ブドウと似る。
葉柄の綿毛度の密	無し	極粗	粗	中			密		極密			山ブドウは中に属す。 ピノ・ノワールに似る。
葉柄の絨毛度の密	無し	極粗	粗	中			密		極密			
中肋に対する葉柄の長さの比			短	中			長			(0.94mm)		ピノ・ノワール 0.7 山ブドウ 0.8
葉柄の太さ			細	中			太			(2.95mm)		ピノ・ノワール 2.4 山ブドウ 3.3
穂梗の太さ			細	中			太			(3.74mm)		
穂梗の長さ	極短	短	中	長					極長	(20.1mm)		ピノ・ノワール(16.0)より長い。
穂梗の色	淡緑	淡紅										
果房の形	球	円筒	円錐	有岐円筒	有岐円錐	多岐肩	複形					
果房の大きさ	極小	小	中	大					極大	(150g)		ピノ・ノワール 170g 山ブドウ 50~100g
果房の長さ	極短	短	中	長					極長	(15cm)		
着粒の密度	極粗	粗	中	密					極密			ピノ・ノワールよりやや粗。
果梗の太さ			細	中			太			(2.1mm)		
果梗の長さ			短	中			長			(6.7mm)		ピノ・ノワールより長い。

形 質	出願品種の特性値(標準品種との比較)									備 考 (測定値等)	類似品種の特性値	
	01	02	03	04	05	06	07	08	09			
果 梗 の 色	黄緑	緑	黄褐	紅褐								
果 粒 の 形	偏円	円	短楕円	卵	倒卵	円筒	長楕円	弓形				いずれも球形。
果粒の大きさ	極小		小		中		大		極大	(1.2g)		山ブドウ(1.0)より大きく、 ピノ・ノワールと同程度。
果 皮 の 色	黄緑 又は黄白	淡紅	赤	赤褐	紫赤	灰赤	青黒 又は紫黒					ピノ・ノワールは紫赤、 山ブドウは紫黒。
果 粉 の 多 少			少		中		多					
果 皮 の 厚 さ			薄		中		厚					ピノ・ノワールより厚い。
果皮と果肉の 分 離 性			易		中		難					
果 肉 の 色	不着色										着色	
肉 質			崩解性		中間		塊状					
甘 味			低		中		高			(20%)		ウイルスフリーのピノ・ノワールと同程度。
酸 味	極少		少		中		多			(0.7g/100ml)		ピノ・ノワール 0.6 山ブドウ 1.0
渋 味	無く極少		少		中		多		極多			
香 気	無	マスクット	フォクシー	その他								
果 汁 の 多 少			少		中		多					
種 子 の 有 無	無								有			
種 子 の 数			少		中		多			(1.8)		
種 子 の 形			短		中		長			(1.51)		
種子の大きさ			小		中		大			(81)		ピノ・ノワールより大きく、 山ブドウより小さい。
発 芽 期			早		中		晩			(4月20日)		山ブドウは4月上旬と早いが、 ピノ・ノワールと同時期。
開 花 期			早		中		晩			(5月23日)		山ブドウは5月中旬と早いが、 ピノ・ノワールと同時期。
成 熟 期			早		中		晩		極晩	(9月上旬～ 下旬)		山ブドウは10月上旬と遅いが、 ピノ・ノワールは9月上旬と早い。

形 質	出願品種の特性値(標準品種との比較)									備 考 (測定値等)	類 似 品 種 の 特 性 値	
	01	02	03	04	05	06	07	08	09			
果実着色の難易			散光着色		中間		直光着色					
花振いの多少			少		中		多					山ブドウにくらべて少ないが、 ピノ・ノワールと同程度。
無核果粒の混入	無 極少		少		中		多	極多				
裂果の多少	無 極少		少		中		多	極多				ピノ・ノワールにくらべ、 特に強い。
果梗の強さ			弱		中		強					
果梗と果粒の分離			易		中		難					
果実の日持ち			短		中		長					
耐寒性			弱		中		強					
病害抵抗性 (うどんこ病)			弱		中		強					ピノ・ノワールにくらべ、 特に強い。
病害抵抗性 (べと病)			弱		中		強					
病害抵抗性 (灰色かび病)			弱		中		強					ピノ・ノワールにくらべ、 特に強い。
病害抵抗性 (こくとう病)			弱		中		強					ピノ・ノワールにくらべ、 特に強い。
虫害抵抗性 (スリップス)			弱		中		強					

### 台木品種のみ

接木の難易			易		中		難					
接木後の樹勢			弱		中		強					
さし木発根の難易					中		難					
根の発根形態			集中性		中間		拡散性					
根の方向角			小		中		大					
耐湿性			弱		中		強					
耐干性			弱		中		強					

## 試作データ

「ヤマ・ブラン (Yama blanc)」の試作データとして、図1に「ヤマ・ブラン」の果粒重・径の季節変化、図2に「ヤマ・ブラン」の屈折糖度計示度と果汁酸度の季節変化、表1にワイン仕込み時における「ヤマ・ブラン」のマスト一般分析値、表2に「ヤマ・ブラン」ワインの一般化学分析値、表3に「ヤマ・ブラン」ワインの利き酒評価を示した。

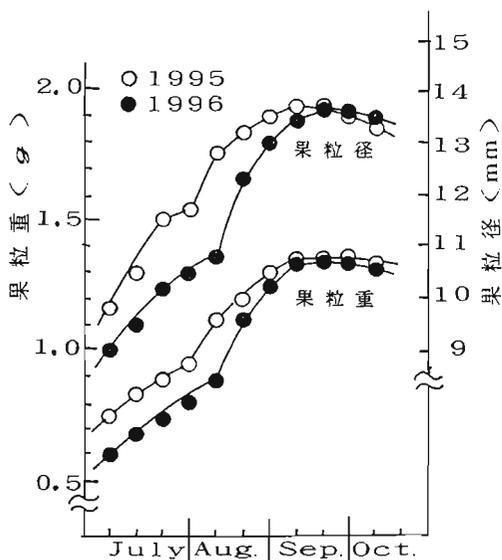


図1. 「ヤマ・ブラン」の果粒重・径の季節変化

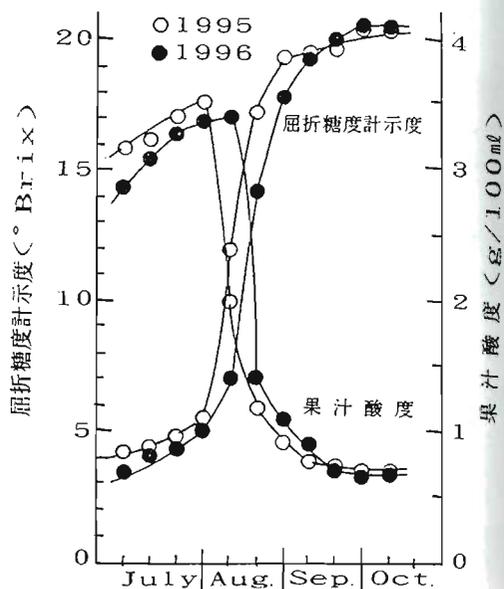


図2. 「ヤマ・ブラン」の屈折糖度計示度、果汁酸度の季節変化

表1. ワイン仕込み時における「ヤマ・ブラン」のマスト一般分析値

収穫年	屈折糖度計示度 (°Brix)	グルコース (g/100ml)	フルクトース (g/100ml)	G/F <sup>1)</sup>	pH	果汁酸度 <sup>2)</sup> (g/100ml)	酒石酸 <sup>3)</sup> (g/100ml)	リンゴ酸 <sup>3)</sup> (g/100ml)	T/M <sup>4)</sup>
1995.9.7	20.0	8.95	9.35	0.96	3.10	0.68	0.63	0.30	2.10
1996.9.15	20.3	9.04	9.00	1.00	3.08	0.75	0.72	0.38	1.89

<sup>1)</sup>グルコース/フルクトース：値が小さいほど熟している。

<sup>2)</sup>NaOHによる滴定法により、酒石酸として算出した。

<sup>3)</sup>高速液体クロマトグラフィーにより、遊離型として全酸測定した。

<sup>4)</sup>酒石酸/リンゴ酸：値が大きいほど熟している。

表2. 'ヤマ・ブラン'ワインの一般化学分析値

収穫年 <sup>1)</sup>	比重	アルコール度 (vol.%)	エキス分 (g/100ml)	pH	総酸度 <sup>2)</sup> (g/100ml)	酒石酸 <sup>3)</sup> (g/100ml)	リンゴ酸 <sup>4)</sup> (g/100ml)	色調 OD=420nm
1995	0.998	11.2	3.51	3.21	0.61	0.35	0.12	0.043
1996	1.002	11.0	4.50	3.30	0.72	0.44	0.22	0.054

<sup>1)</sup>ワインの分析はオリ引き後の同年12月初旬に行った。

<sup>2)</sup>NaOHによる滴定法により、酒石酸として算出した。

<sup>3)</sup>高速液体クロマトグラフィーにより、遊離型として全酸測定した。

表3. 'ヤマ・ブラン'ワインの利き酒評価

収穫年 <sup>1)</sup>	パネル <sup>2)</sup>							
	1	2	3	4	5	6	7	$\bar{X}$
1995	2.5 <sup>3)</sup>	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	3.0	2.29
1996	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	—	2.0	2.10

<sup>1)</sup>ワインの利き酒試験は同年12月上旬に行った。

<sup>2)</sup>パネルはワインメーカーの技術者4名を含めた7名で行った。

<sup>3)</sup>評価はコメントをつけた5点法で行った。1:優秀、2:良、3:普通、4:劣る、5:不良

コメント：ピノ・ノワール様の果実香がある。熟成が楽しみ。

甲州種よりも香りが高く、厚みがある。

酸はやや高い感じがするが、厚みがある。

エキス分を少し高くして、酸味とのバランスをとれば良い。

酸化しやすいように思えるが、色調に注意が必要ではないか。

甲州種に比べ、個性がある。

大量仕込み、仕込み法でさらに酒質の上昇が期待できる。



写真1. 新品種 'ヤマ・ブラン' の 5 花穂 (1997年5月20日撮影)



写真2. 新品種 'ヤマ・ブラン' の拡大花穂 (1997年5月20日撮影)



1996年9月11日撮影

写真3. 新品種「ヤマ・ブラン」完熟期5果房（1996年9月11日撮影）



Yamablan (ヤマ・ブラン)  
Plant name (ヤマブドウの品種名)

1996年9月11日撮影

写真4. 新品種「ヤマ・ブラン」完熟期果房と成葉（1996年9月11日撮影）

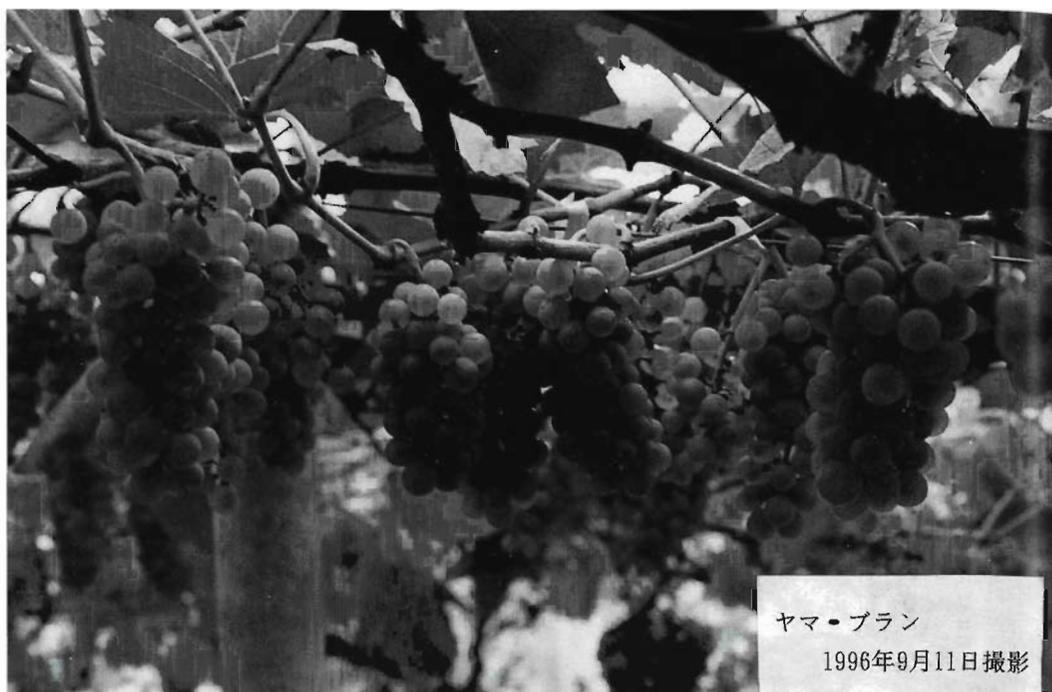


写真5. 新品種 'ヤマ・ブラン' 完熟期棚下果房 (1996年9月11日撮影)

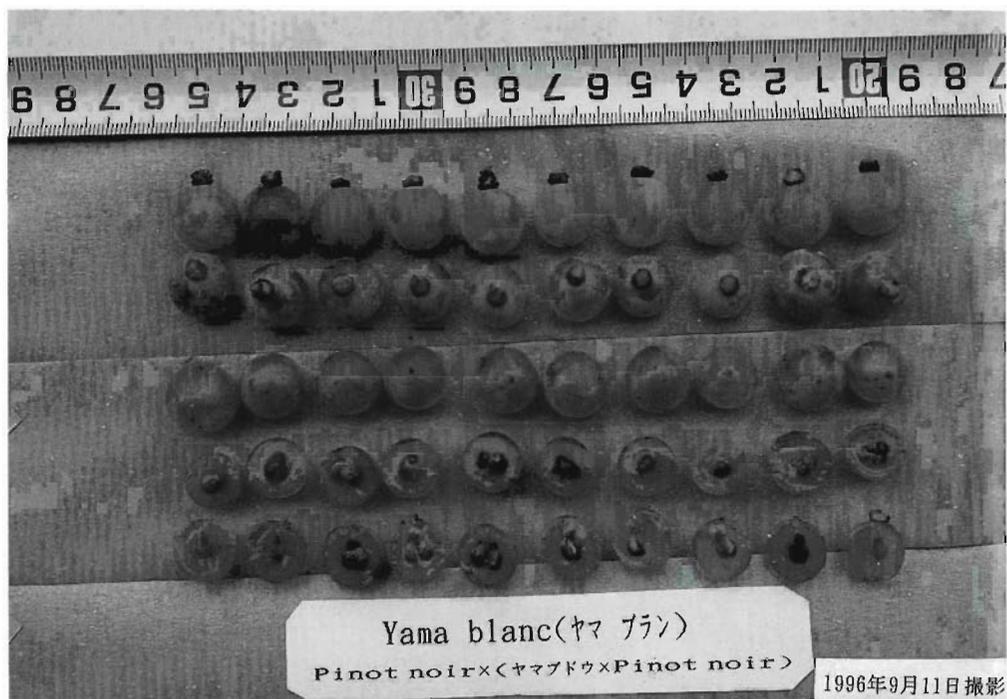


写真6. 新品種 'ヤマ・ブラン' の完熟果粒各態 (1996年9月11日撮影)



写真7. 新品種「ヤマ・ブラン」の種子各態 (1996年9月11日撮影)

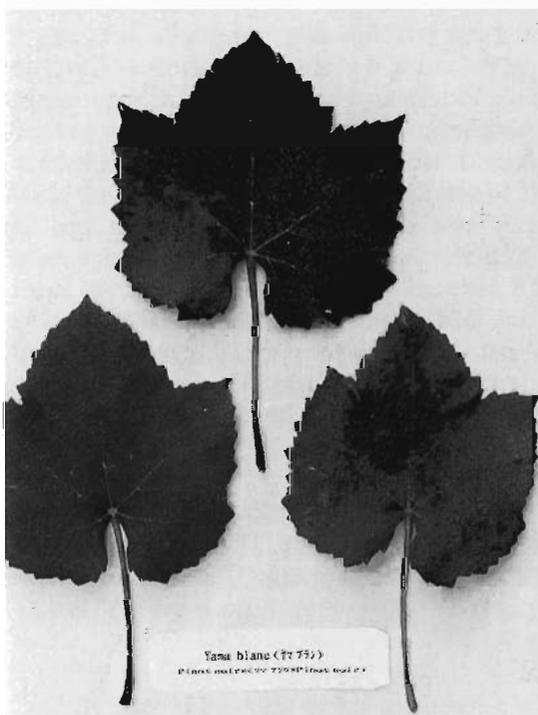


写真8. 新品種「ヤマ・ブラン」成葉(表面)  
(1996年9月12日撮影)

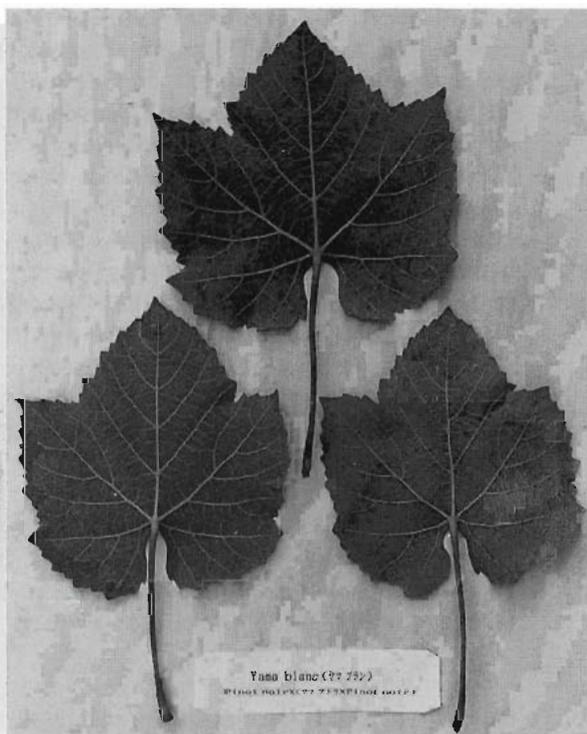


写真9. 新品種「ヤマ・ブラン」成葉(裏面)  
(1996年9月12日撮影)